



キャンパス通信



巻頭言／1
新学長ご挨拶

NEWS／2

Report／5

輝くND生／11

活躍する卒業生／17

各部局から／18

行事予定／20

人事・編集後記／21





学長
中村 久美

新学長ご挨拶

この度、2020年1月29日付で学長職に就きました。前任の眞田雅子先生が2019年10月末日をもって突然のご退職となり、思わぬ任を担うことになりました。任期は2024年3月までとなります。どうぞよろしくお願いいたします。

私は幼稚園こそ大阪の信愛幼稚園で、お御堂や御ミサを経験しましたが、小・中・高・大と国公立の学校で過ごしました。カトリック信者ではありません。それでも1999年の着任時に本学新任研修を受けました際、当時の梶田学長やSr.ジュディス鎌田理事長ほかシスター方のお話を聴きながら、建学の精神と目標として仰ぐマリア様、この2つを不断の礎とする、いわば一本筋の通った教育というものに、新鮮かつ敬虔な気持ちを抱いたのを覚えています。その気持ちは、この21年間で、私にとって確かな教育への信頼と誇りに変わってきたように思います。一方で、高等教育をめぐる社会環境の変動と本学の浮沈を目の当たりにしてきました。

2040年、大学への進学率は男女とも6割近くまで上がることが期待されるものの、18歳人口の減少をカバーするには至らず、結局大学進学者は、現時点より12万人以上少ない50万6000人程度にとどまると予想されています。現在760余りある大学の定員が現状のままであると仮定すれば、当然起こり得ることは定員充足率の悪化による大学淘汰が加速化されるということです。資産や人的資源の豊かな大規模大学は、さらに中小大学を併合、あるいは学部増設を果たし巨大化する一方、小規模大学にとっては非常に厳しい環境になっていくでしょう。

ただし、複雑な現代社会に生を受けた若者にとっては、巨大キャンパスに加えちよつとした町の人口に匹敵するような大勢の学生、という圧倒されるような教育環境に、自分を見失い、居心地の悪さを感じる人は少なくないと思います。潜在能力や個性を埋没させてしまったり、意欲の芽を摘まれてしまうことも考えられます。そこにこそ一人ひとりとていねいに向き合う小規模大学の価値があると考えます。個々の存在が温かく見守られる中で自分なりの学びをデザインし、教員や学生相互との対話の中からそれぞれの進む道を見出し、自分の力を蓄える、そのような教育の場を安定的に提供する大学であるなら、本学はこれからも高等教育の一角に位置づく場所があると考えます。

そのために、私の在任期間中に、教育のさらなる充実化(体制、内容)とその発信に努めていきたいと考えます。現在2021年度からのカリキュラムの策定をしていますが、学生が自覚的に考え、協働し、発信する力など「ND6」と私たちが呼ぶ汎用的な力を養成しつつ、それぞれの専門的知識や技能を身につけられるよう、体系的で明示性をもったカリキュラムにすると同時に、新カリキュラム策定で議論している内容を、大学広報として積極的に発信していきたいと考えます。それによって最終的には、教育に真摯に向き合う大学としてのブランドを築いていきたいと考えています。さらに4年後以降、2030年に向けた教育組織のあり方の検討も必要になってきます。高等教育をめぐる様々な社会的要請と、本学が有する人的ポテンシャルを含めた教育資源を総合的に考え、上述の大学教育を推進するうえで最適化した組織の形を追究していきたいと思います。

以上の取り組みと併行して、任期中、創立60周年や第3期認証評価がめぐってきます。特に60周年は人間でいうところの一回りの節目。学生の皆さんや卒業生の方々、それに教職員全員でお祝いすると同時に、本学院が有するミッションコミットメントー「尊ぶ」「対話する」「共感する」「行動する」を、改めて関係者全員で共有し、前進していきたいと思います。

生活環境学科について(2021年4月学科名称変更)

生活科学コース
生活経営・経済コース
精神保健福祉コース

2021年4月より、福祉生活デザイン学科は生活環境学科に名称を変更します。

生活環境学科は、多様な考えや価値観が共存する社会の中で、一人ひとりの暮らしに豊かさや幸せを導き出していくとともに、その社会の一人ひとりと対話し、絆を結び、協働し、地域や社会に働きかけていける女性を育成します。

新学科の学びの特色は、次の4つです。

1 人の暮らしをコーディネートするための幅広い学び

衣・食・住、家族、生活経営・経済、生活福祉、精神保健福祉などを1年次生で幅広く学び、2年次生で自分の専門を決めて専門性を深めます。

2 幅広い学びにさらに生活経営・経済の領域を追加

現代社会に求められる人生のライフ・プランニングを可能にする生活経営・経済の学びを追加。生活経営・経済コースでは人の暮らしについて一人ひとりが自立した豊かな生活者としての生き方を学び、アドバイスできる力を身につけます。



3 実験、実習でスキルを身につける、新たな生活科学コース

生活を「科学」する、新たな生活科学コースを開設。衣・食・住の理論を学び実験・実習でスキルを身につけ、幅広い視野の思考力と専門性で社会のニーズに応える暮らしをクリエイトする力を養います。

4 こころの時代に求められる精神保健福祉士の養成に特化

これからの時代に求められる精神保健福祉士に特化して学びを再構成。精神保健福祉コースでは「女性」と「家族」を支援できる専門性の高い精神保健福祉士を養成します。

こども教育学科の新コースについて

現代人間学部こども教育学科(定員70名)では、2021年度から、現在の3コースを再編し、次の2コースを新設することになりました。

幼児教育コース(幼・保)
初等教育コース(小・特・幼)



幼児教育コース(幼・保)は、保育学、幼児教育学を中心に学んで、保育士や幼稚園教諭になるための専門的な見識を身に付けるコースです。

初等教育コース(小・特・幼)は、教育学、特別支援教育学を中心に学んで、小学校教諭や特別支援学校教諭になるための専門的な見識を身に付けるコースです(幼小連携が強く求められている京都市などの公立幼稚園の教諭をめざしている人にも対応しています)。

ただし、入試の段階ではコースごとの入試をせず、こども教育学科としての入試をします。そして、1年次生の前期の学習をふまえて、前期の終了時にいずれのコースに進むかを選択し、1年次生の後期から各コースに分属することといたします。

「幼児と児童の教育者として社会に貢献していこうとする女性」を育てることにより、一層尽力してまいりますので、ご周知のほどをどうぞ宜しくお願い申し上げます。

国際日本文化学科「国際観光プログラム」

国際日本文化学科では、2021年度より新たに「国際観光プログラム」をスタートさせます。日本と世界の文化を深く理解し、語学力やホスピタリティ・スキルを基盤にした高いコミュニケーション能力を身につけます。さらには、他者と協働する力、リーダーシップ、情報を収集し適切に処理する力、計画を立案し実行する力、課題に対応する力を育みます。

「観光学概論」「観光ビジネス論」といった新しい授業を導入するほか、実践型の研修も実施します。京都市観光協会等の団体、地方自治体、大手旅行会社との連携によるインターンシップを含めた教育プログラムにより、旅行業界、ホテル業界、行政機関などで活躍できる人材の育成をめざします。観光分野はもちろん、それ以外の分野へのキャリア支援の強化にもつなげます。



公開講座2020の予定

今年度前期は「こどもとの対話から始まる特別支援教育」と題し、兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課副課長 田中 裕一氏をゲスト講師にお迎えして開催する予定です。

・日時：5月23日(土) 14:00～16:00(開場：13:30)

・場所：ユージニア館 NDホール

・事前申込制(大学HPの申込フォームからお申込み下さい)

・内容：「こどもとの対話から始まる特別支援教育」

講師：兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課副課長 田中 裕一氏

「特別支援教育に関わる学生・教員を支援するSociety5.0時代の学び」

講師：こども教育学科 准教授 太田 容次

「地域における特別支援教育の事例紹介」

講師：こども教育学科 准教授 江川 正一

これ以降の開催予定については、詳細が決まりましたら大学ホームページ等でお知らせします。

皆さまのご参加をお待ちしております。



新任教員紹介



国際日本文化学科
准教授

石川 裕之

2019年10月より国際言語文化学部国際日本文化学科に着任いたしました石川裕之と申します。前任校では教員養成系の学部にも所属し、小学校教諭や保育士などの養成に携わるとともに、大学全体の教育改革業務を担当してきました。その前の勤務校は国立総合大学の高等教育センターでした。今回はじめて教育学系以外の組織に所属することになり、とても楽しみにしております。

専門は比較教育学です。簡単にいいますと、海外の教育や国境を越える教育事象を研究対象とする学問分野になります。中でも私はお隣の韓国をフィールドとして研究をおこなってまいりました。主な研究テーマは才能教育です。才能教育とは、一人ひとりの才能を最大限に伸ばすためにおこなう教育を指します。最近では「ギフテッド教育」とも表現されますね。

まだ不慣れで至らない点も多々あるかと存じますが、これまでの自分の経験や研究を本学の教育に生かせるよう頑張っていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

退職の辞



英語英文学科
教授

吉野 啓子

初代学長シスター・ユージニアの優雅な立ち居振る舞いや、気品溢れる美しい英語、そして厳しさと優しさ溢れる授業内容。そして、謙虚で品位ある一方で、厳しさと優しさの二刀流でアクティブに授業を進められるシスター・ビビアン。このお二方に憧れて、教えを請いたい、教授法を学びたい、少しでも近づきたいと思い、本学にお世話になりました。

しかし元来、不器用で要領が悪い自身を省みると、お二方に近づくどころか、かなり離れた状態で職を辞することになりました。自らの無力を知ると同時に、今更ながらですが、お二方の偉大さに感服するばかりです。お二方に礎を作っていただき、その後も引き続いて、人生の半分を本学で研究生生活をさせていただいたことに、深く感謝しております。心よりお礼を申し上げ、退職の辞といたします。



英語英文学科
教授

橘堂 弘文

3月をもちまして定年退職を迎えることになりました。皆様のご厚情に感謝いたします。

退職後は、Ending is Beginning (終わりは新たな始まり)と人生の新たなステージを、ライフワークの教職課程と英語教育学、特別活動のゼミやハンドベル部のチャリティー活動、幼小中高校現職教員たちと在學生との研修会「教育を考える橋の会」等の「経験知」を生かして、教育学部の専任教授として大学の全人教育に専念いたします。

小学校の英語が教科になり、その教科化への対応と、「小・中一貫/接続」教育が重視され課題になっていますが、「大学が学びの場だけでは物足りない」と10年以上継続してきた公立小学校の外国語活動のスクールインターンシップや、特にカナダのRegina大学の特定目的海外研修で、ESLのスタッフのご協力を得て、現地の小学校でスクールインターンシップを2回も企画実施できたことは、良い思い出の1ページとなっています。

これからも変わらず、自身の「小中一貫の英語教育」の教育実践と研究活動の「経験値と実践の成果」、京都地区大学教職課程研究協議会会長職や教員養成連絡協議会副座長職で得た掛け替えのないネットワークを生かし、モットーとする「何事にも前向きに工夫と努力を重ねれば楽しくなるし確かな成果も出て疲れが爽やか」を実感しながら、学生たちの「生きる力」を育む教育・研究活動と学生たちの卒業後に教職に就きたいという希望の自己実現に、前向きに取り組みたいと思っています。

京都ノートルダム女子大学のご発展をお祈りいたしております。



英語英文学科
准教授

杉村 美奈

私は2020年3月をもって7年間本学では勤めたこととなります。退職までの時間が残り少なくなった今、本学の教育理念である「徳と知」について改めて考えさせられる機会に恵まれました。そのきっかけとなったのは、同僚の先生から教えていただいた、アメリカの心理学者であるBarry Schwartz氏の“Our Loss of Wisdom”「知の喪失」というTED Conference 2009におけるご発表です。Schwartz氏は、仕事において最も大切なことは「正しい行為をしたい」という倫理観をもつこと、また、その倫理観を支えるのは“practical wisdom”という美德であると主張しています。また、「学ぶことの尊さ」を教員も学生も重んじるべきであり、そのためには美德が必要であると氏は言っています。本学の教育理念である「徳と知」も、まさに氏の言う「学ぶことの尊さを自らの美德をもって重んじる」ということだと信じています。そして、これからもこの教育理念を大切にしたいと考えています。



こども教育学科
講師

住本 純

4年前、京都ノートルダム女子大学へ勤めさせていただくこととなり、私の友人や家族にその報告をしたとき、「そんな歴史と伝統のある女子大学で何を教えるのか」と尋ねられました。そのような大学に巡り会えたこと、また勤めることになったことを自分自身の誇りに思ったことを今でも覚えています。それは現在でも変わりありません。

大学では、私の専門領域である体育科教育学の授業を中心に、保育者養成の科目、共通教育の科目を担当させていただきました。これら複数の特色ある科目を担当いたしましたことは、確実に私の研究の範囲を広げてくれました。その中で、試行錯誤し、うまくいかないことも多々ありました。そのとき支援していただいたのが事務職員や教員の皆様でありました。

本当に温かくご指導ご支援いただき、ありがとうございました。

心理学公開講座

「京町家の暮らしと人のこころー行動建築学への招待ー」実施報告

開催日:2019年10月5日(土)

2019年10月5日(土)、伊藤正人先生(大阪市立大学名誉教授)をお招きし、公開講座を開催いたしました。はじめに、空間美智子准教授(心理学科)により、人のこころを行為から見る視点として、行動分析学による「こころ」の見方について解説がありました。行動分析学は、心理学以外の幅広い分野で実践が展開されて



ており、行動分析学と建築学の融合として「行動建築学」が位置づけられました。

伊藤正人先生のご講演では、京町家の歴史と建築的特徴、町家再生の

過程と現在のそこでの暮らしについてがありました。京町家を人のこころと環境の相互作用の産物として捉え、その魅力とともに、少しの影の部分(とその対策)まで、具体的に紹介してくださいました。スクリーンに示された美しい資料を見ていると、季節の移ろいとともに暮らす愉しみと、そのことが時代を経ても変わらず、私たちにとって大切であることを再認識させられました。

当日は、地域住民の方々に加え、町家再生の事業に携わっておられる方、心理学や建築学を専攻する他大学の学生も多く来場されました。講演後の質疑応答も活発で、講座が終了した後も個別に質問する来場者の熱心な姿からは、今後の京町家の保全と、行動建築学の展開に期待を抱かされました。

会場: ユージニア館 NDホール
参加人数: 76名

福祉生活デザイン学科公開講座

「京都でつなぐ多様な家族と社会 ひとり親世帯の父の視点をととして」実施報告

開催日:2019年11月16日(土)

2019年11月16日(土)、木本努氏(特定非営利活動法人京都いえのこと勉強会理事長)をお招きして公開講座を開催いたしました。初めに青木加奈子講師(福祉生活デザイン学科)から日本とデンマークの家族を取り巻く状況とひとり親世帯の現状について分かりやすく説明していただきました。

次に木本努氏から子育てと家事に奮闘する専業主夫の体験談をお話いただきました。木本氏は、ひとり親になった当初はワンオペ育児で大変苦労されましたが、その後ママ友とのつながりを心の支えに子育てや家事に楽しみや喜びを見出されました。

2014年には同じ父子世帯の支援として「京都いえのこと勉強

会」を京都市に設立されます。木本氏は「育児は育自である。親の居場所づくりが必要であり、情報発信が一番の支援である。」と語られました。家族が多様化するなか、人とのつながりの必要性について考える良い機会になりました。



会場: ユージニア館 NDホール
参加人数: 35名

生活福祉文化専攻公開講座

「ソーシャルワークの潮流～過去・現在・未来」実施報告

第一講座:キリスト教社会事業家の事業と思想 講師:室田保夫特任教授(生活福祉文化専攻)
第二講座:病いと生活を支えるソーシャルワーク 講師:小西加保留特任教授(生活福祉文化専攻)

開催日:2019年11月23日(土)

室田保夫特任教授(生活福祉文化専攻)はキリスト教社会事業家の先駆者の話をしてくださいました。石井十次、留岡幸助、山室軍平といずれも福祉の教科書には必ずといっていい著名な事業家について説明をしてくださいました。特に山室軍平とその妻山室機恵子の活動については救世軍活動と愛隣隊活動について年表や当時の写真を交えて説明していただきました。

小西加保留特任教授(生活福祉文化専攻)は医療を取り巻く環境の変化、医療機関の変化について図表を交えながら説明してくださいました。また医療機関で働くソーシャルワーカーについて、医療ソーシャルワークの現場事例を紹介くださり、困りごとに対応する援助の在り方、社会資源の紹介など実際の医療ソーシャルワークの状況の解説をしていただきました。

質問コーナーでは市民参加者の方から熱心な質問が寄せられ

てお応えいただくことができ、熱心な講座を実施することができました。



土曜公開講座

「今を生きるためにー基督教の思想・文化にふれるー」実施報告

開催日:2019年11月30日(土)

カトリック教育センターでは毎年秋に一般・教職員・学生を対象にした2回シリーズの公開講座を催していますが、2019年度の第1回(10月12日)は台風19号の接近に伴い、残念ながら中止となりました。第2回(11月30日)は14時から17時まで以下3人の講師によって行われました。

Sr.中里郁子准教授(国際日本文化学科)「シエナの聖カタリナ『対話』における『靈魂の橋』」、中村久美教授(福祉生活デザイン



学科)「住様式研究にみる住まいと暮らしの古今東西ー宗教・文化が関わる“入浴”“収納”ー」、藤本陽三特任准教授(こども教育学科)「チェンパロをつくろう」。

毎年この公開講座を楽しみに受講されている方々も多くおられ、今回も各講師の熱意あふれる講義から新たな知識と発見を得られた貴重なひとときとなりました。

(カトリック教育センター長 久野 将健)

研究プロジェクト発表会2020

「“せんせい”の学びを考えるー養成・研修を通じた教師の成長ー」実施報告

開催日:2020年3月5日(木)

2020年3月5日(木)「研究プロジェクト発表会2020」を開催しました。参加者は、教職員22名でした。本発表会は、京都ノートルダム女子大学研究助成の前年度までの研究成果を学内外に発表するものです。今回は、全体テーマを「“せんせい”の学びを考えるー養成・研修を通じた教師の成長ー」とし、3題の発表が行われました。

当初は、現職の小中学校、支援学校等の“せんせい”をはじめ一般の方にもご参加いただく予定でしたが、折からの新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者を教職員に限定し内容も縮小せざるを得ませんでした。

発表演題と発表者、概要は右記のとおりです。



- 1.「現職教員の体育科長期研修における成長」住本 純(こども教育学科講師)
今回は体育科に関する成長に絞り、研修プログラムの成果と課題、その成果の現場への活用還元状況を考察する。
- 2.「社会科教育に関わる小学校教師の資質・能力の育成」大西 慎也(こども教育学科准教授)
本発表では、社会科授業に対する「積極的関与」を促す要因と苦手な小学校教師が有している社会科授業に対する「積極的関与」を阻害する要因に基づき、社会科授業に関する小学校教師の資質・能力の構造とその育成の方略を示す。
- 3.「特別支援教育に関わる学生・教員間の“CNS上の対話”による学びの分析」太田 容次(こども教育学科准教授)
特別支援学校教諭免許状取得希望の学生や現職教員等のみが参加可能な発話ログを、計量テキスト分析の手法により分析した結果を報告する。

いずれの発表も最新の研究成果が紹介され、本学の教員養成課程における教育にも示唆を与えるたいへん興味深いものでした。

『京都ノートルダム女子大学研究紀要』第50号が発刊されました

京都ノートルダム女子大学における研究・教育成果を発表する学術研究誌『京都ノートルダム女子大学研究紀要』第50号が発刊されました。執筆者とタイトルは下のとおりです。冊子は本学図書館にて閲覧可能です。冊子の入手をご希望の方は研究・情報推進課(TEL:075-706-3789)までご連絡ください。また、京都ノートルダム女子大学学術リポジトリにより、学内外にWeb公開します。(京都ノートルダム女子大学学術リポジトリ「のあ」(<https://notredame.repo.nii.ac.jp/>))

- 【総 説】・英国文学と女性ー作品にみられる女性と人生についてー(吉野啓子)
【学術論文】・講義型授業における事前・事後学習と学習方略・授業への興味・理解度の関連について(松島るみ、尾崎仁美)
・逆境体験のある双極性障害者の認知の特徴(村松朋子、芦村和美)
・就学前幼児Mの物語創作ー国語学習個体史の研究ー(渡辺春美)
・属性の起源(三原健一)
・「青い花束」が持つ他者のかたち(平山幸乃)
・外山卯三郎と純粋詩歌(長沼光彦)
・井戸茶碗名義考(堀勝博)

(掲載順)



学長裁量経費決定について

概要

学長裁量経費とは、学長の強いリーダーシップのもと、学長自らの裁量により教育の質的転換、特色ある教育の展開、産業界・他大学等との連携、地域におけるプラットフォームを通じた教育資源の集中化・共有等、本学の教育改革・改善、教育の特色化・機能強化等につながる優れた取り組みに対して重点的に支援することを目的とするものです。2019年度は、以下の6件が採択されましたので紹介します。

WINNERS養成セミナー

2019年度学長裁量経費での事業としてキャリアセンターでは「WINNERS養成セミナー」を実施しました。

株式会社ANA総合研究所から講師を迎えて、自己理解を深め、自分の将来像を描き、実現のためにやらなければならないことを行動計画に落とし込むことを目的とした特別なセミナーです。期間は8月8日(木)～10日(土)の3日間、毎日5時間の集中プログラムに、未来を切り開く意欲と勇気のある3年次生を中心とした14名の学生が参加しました。

「主役は皆さん」「たくさん話す、たくさん挑戦する、たくさん失敗する」ことを約束ごととして、時に黙考し、時にグループで分かち合い、全員の前で発表しその姿を動画で確認するなど、実践にポイントを置いたプログラムでした。これから将来を具体的に考える

学生にとって、内容の濃い有益なセミナーだったと思います。

終了時には「相手から見える自分、新しい苦手の発見があった」「マイナスに感じることも、次につながる考え方を探しプラスに物事を取り入れるようにしたい」「就職に向けてだけでなく自分を見つめる良い機会になった」という感想があり、各々が成果を感じたようでした。

自身のキャリアや実現への意欲につながる内容は、意識の高まるこの時期ならではの機会であったと思います。前向きに自信を持った彼女たちが、希望する道を見つけ進んでいく姿をキャリアセンターも応援していきます。

(キャリアセンター)

	1 日目	2 日目	3 日目
午前	【ワーク】 自分を振り返る	【講義】 どう見られるのか	【講義】 自分を取り巻く社会
午後	【ワーク】 将来を考える	【実技】 立ち居振る舞い、自己表現	【ワーク】 将来像実現イメージ

ローマ教皇来日行事への学生派遣

2019年11月にローマ教皇フランシスコが来日され、「すべてのいのちを守るため」というテーマで長崎、広島、東京において集いやミサが行われました。本学からは2019年11月25日(月)に東京カテドラルで行われた「教皇と青年との集い」と東京ドームで行われた「教皇ミサ」に学生11名が派遣され、引率教員2名と共に参加しました。

「教皇と青年との集い」で教皇は、多様な背景を持つ若者同士が友情をはぐくみ、異なる経験や見方を尊重し、自分が神から受けた賜物を他者のために差し出して共有することが、幸せと豊かに繋がると話されました。また、より良い未来を築くため、視野を広げて広い地平をめざし、夢を実現する熱意を持つ、目覚めている若者が日本にも世界にも必要であると、青年



たちへの期待を表明されました。

東京ドームのミサの説教で教皇は、イエスが病気の人や罪人をもその腕で包み、自分を十字架に処した人をもゆるされたことを心に留め、目前にあるいのちを、抱擁し、受け入れる態度で、すべてのいのちを守り、傷のいやしと、和解とゆるしの道を差し出すよう呼びかけられました。

この来日行事に参加した学生たちは、教皇との出会いを通して様々な貴重な経験をし、2020年1月22日(水)に実施された報告会で各自の体験と学びについて発表しました。また、「自分に与えられた賜物を他者と共有すること」、「人を愛し受け入れること」、「命を大切にすること」、「人をゆるすこと」、「他者との違いを恐れず、平和を築くこと」など、教皇フランシスコのメッセージから学んだことを今後の生活にどのように活かしていきたいかについて、各自の希望や決意を語りました。最後に、カトリック大学である本学の学生であったからこそ、大学から派遣していただけて行事に参加して教皇フランシスコと出会い、一生の思い出になるような体験ができたことへの心から感謝の言葉を述べました。

(カトリック教育センター 中里郁子)

こども教育学科の活動

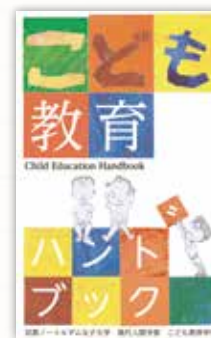
学生さんたちが入学するとき、頭の中ではおぼろげに「小学校の先生になるのもいいな」とか「幼稚園と保育園どちらが自分に向いているだろう」など、自分のキャリアについてはまだはっきりしていない人も少なくありません。本学のこども教育学科では、1年次生後期からのカリキュラムはコース別の授業で構成されています。そのため1年次生前期には、学生たちのコース選択のために、「こども教育演習」「こども教育フィールド研修」という2つの必修授業があります。保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校の特徴を知るために、全員が4校種それぞれ半日の体験実習に行き、自分とのマッチングについて考えます。体験実習に行ったことで自分の意思がより一層ははっきりしたり、あるいは当初考えていなかった校種の良さを知り、進路を少し変更したりということが起こります。これらの授業や2年次生以降からはじまる「保育・教育実習」の事前指導のために、4校種すべてについて書かれた本があると便利だと、学科教員の私たちは考えていました。そのような都合の良い教科書はなかなかありません。自分たちで作るしかない、しかしそれはとてもエネルギーの要ることです。

そこに、学長裁量経費を受けることができました。まさに渡りに

船です。教科書を作りたいという私たちの総意が認められました。①4校種それぞれについての理解、②実習オリエンテーションの受け方と実習の心得、③実習のための健康管理、④実習の取り組み方、⑤実習日誌や指導案の書き方、⑥実習後のリフレクション、⑦その後の学習、といった内容で、学科教員総動員でそれぞれ自分の専門分野を担当しました。

そして、図工科専門の教員によるとても素敵なデザインの表紙ができあがり、特別支援教育専門の教員の発案で、人にやさしいユニバーサルフォントを使用した、読みやすい字体の教科書が仕上がりました。納品後は、4月からの新年度の授業で試験的に使用し、必要であれば修正をして次の機会には出版する、ということも視野に入れています。

(こども教育学科)



「学生の自主性及び主体性育成に供するアクティブラーニング機器の整備」



学生に情報発信することに慣れももらうため、個人所有のスマートフォンを用いてアクティブラーニングや協同学習に参加できるワイヤレスプレゼンテーションシステム「Cynap」二式を導入しました。

ワイヤレスプレゼンテーションシステムとは、スマートフォンやノートPCといった無線

通信機能を有する機器の画面を任意のタイミングで発信できるシステムです。普段使っているスマートフォンが利用できるため、アクティブラーニングへの抵抗感が抑制され、活発な利用が期待されます。

設置場所は図書館1階のラーニングコモンズとグループワークスペースです。今後は授業での利用頻度向上のため、設置場所を適宜変更する予定です。

(システム管理課)

manaba活用による学生の利便性向上と主体的学修の促進

本学が、LMS(Learning Management System)として「manaba(マナバ)」を導入し、講義資料の掲出やレポートの提出、授業アンケートなど、学修支援への活用を開始して2年が経過しました。学生の主体的な学びを促進するため、常に講義のシラバスを参照することで到達目標を確認したり、事前事後を含めた自らの学修活動を振り返ったりできるよう、manabaの各コースからのリンク機能追加や、manaba開講情報設定機能への複

数曜日時限表示機能追加をしました。これにより、webシラバスをスマートフォンで確認するなど学生自身による学修活動のマネジメントが効率化されます。教務課では「何を教えるか」から「何ができるようにするか」への教育の質的転換を進める基盤として今回の取り組みを位置づけており、今後もさらなる学修環境の整備を図る予定です。

(教務課)

入学試験時提出書類記載内容の電子化によるデータ分析の推進

2019年度学長裁量経費に係る取り組みの一つとして採択された本取り組みは、文部科学省の掲げる高大接続を本学においても実現するために開始したものです。入試改革において、高等学校で培われた「学力の3要素*」をいかに評価するかが大きな軸であり、また、それを大学入学後の教育にもつなげていくことが求められます。現在、入学試験の際に提出される書類の記載内容は多様であり、公平に評価することが課題となっています。

そこで、入学試験の際に提出された書類に記載されている事項をデータ化し、さまざまな記載事項を類別したうえで一元的に取りまとめる電子化ツールを導入します。このことにより、公平かつ

適切に書類の記載内容を評価できるようになるだけでなく、そのデータの分析を推進し、今後の入試及び大学入学後の学びに活用することを視野に入れています。

2019年度は、書類記載事項を読み取り、データ化する電子化ツールを企業の協力を得て開発を進め、データ蓄積をしました。さらに、将来的にこれらのデータをAIにより学生の活動に生かせるシステムを企業と共同で開発する予定です。

*学力の3要素:「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」

(入試課)

英語英文学科主催

第9回英語スピーチコンテスト

開催日:2019年10月13日(日)

The 9th Kyoto Notre Dame University English Speech Contest was held on Sunday, October 13, 2019. This year's contest continues a tradition that began as part of the celebrations for KNDU's 50th Anniversary in 2011. We invited applications from high school students from around the country to deliver original and well-crafted speeches on any topic of their choice. This year we received a record number of 41 applications, and after evaluating the candidates we were able to narrow the field to 10 contestants.

The contest took place in ND Hall. We had a number of parents and high school teachers in the audience to listen to a wide range of strong speeches. The judging panel comprised three native-speaking English teachers (Hardy, Pearce, and Herder), who all observed that the contestants' speeches were of a very high quality, making it difficult to choose only three winners. In the end, the First Prize was awarded to a student from

Notre Dame Jogakuin Senior High School in Kyoto, for her speech entitled "A New World," which described current challenges in the world and called for young people to be leaders of the future. The Honor Prize went to a student from Shizuoka Kenritsu Fujieda Higashi High School for her brave speech about discrimination called, "I Was Just Different." Finally, a student from Suma Gakuen High School received the Special Prize for her important speech on the importance of knowing about issues happening within Japan called "Share for Our Future."

All of the speakers should be commended for their efforts. We look forward to another strong group of competitors at the next contest.

会場:ユージニア館 NDホール
出場人数:10名
参加人数:約25名

2020年度入学予定者対象「入学前教育講座」実施報告

開催日:2020年2月13日(木)・14日(金)

内部校・連携校の入学予定者38名が5つの講義と卒業研究発表会を受講!

2020年4月に入学する新入生のうち、本学の内部校・高大連携校からの入学者を対象とした「入学前教育講座」が2日間にわたって開かれ、38名が受講しました。5つの講義とは、「学ぶ姿勢と大学活用法」(青木加奈子講師)、「学問的ものの見方・考え方」(佐藤睦子准教授)、「英語に親しむ」(Steven Herder准教授, Daniel Pearce講師)、「図書館と情報の活用法」(図書館情報センター)、「ノート・レポートの書き方」



卒業研究発表

ゲームやワークを通して英語を使う受講生

(久野将健教授)でした。

また、2日目の午前中には、優れた卒業研究をした4年次生7名が、各自の卒業研究(表参照)を発表し、発表後には食堂で大学生生活の質問に答えてくれました。

受講生たちは、大学生としての学ぶ姿勢や学問的思考の講義や、先輩学生の研究発表を真剣に聴いていました。また、ネイティブによる楽しく有意義な英語の授業や、図書館での実習を軸とした講座への参加によって、高校までの受動的な学びと大学での能動的な学びの違いを知り、2か月後にスタートする大学生活を楽しみにしていました。

(ND教育センター 教授 吉田 智子)

会場:ユージニア館 E402、E304、図書館 ラーニングコモンズ
参加人数:38名

発表者	発表タイトル
【英語英文学科代表】 山本 由莉さん	PROS AND CONS FOR ENGLISH EDUCATION IN THE ELEMENTARY SCHOOL LEVEL
【国際日本文化学科代表】 青木 珠美さん	ユニバーサル絵本の制作
【生活福祉文化学科・福祉分野代表】 杉村 百音さん	差別語の扱われ方—国語教師における差別語への向き合い方—
【生活福祉文化学科・生活分野代表】 正田 理湖さん	インテリアファブリックスに向けた拭き取り洗浄に関する研究
【生活福祉文化学科・保育分野代表】 菅井 千郁さん	保護者の育児に対する意識と求める子育て支援について
【心理学科・学校分野代表】 内貴 千里さん	小学校理科「音」に関する素朴概念の実態
【心理学科・心理分野代表】 北谷 玲菜さん	女子大学生におけるコラージュ体験による気分変化について

ノートルダムクリスマス

開催日:2019年12月19日(木)

2019年12月19日(木)午後2時より、本学ユニソン会館大ホールにおいて、ノートルダム学院小学校、ノートルダム女学院中学高等学校、京都ノートルダム女子大学の三校合同によるノートルダムクリスマスが開催されました。この行事はイエス・キリスト降誕の物語をタブロー(聖劇)で再現し毎年行っているもので、合同合唱団、中高オーケストラクラブ、大学ハンドベル部などの演奏が流れる中、会場は厳かな雰囲気になりました。キャンドルサービスでは、舞台上の大天使から参加者のろうそくへ次々と点火され、美しく幻想的な光景となりました。ウィリアム神父様のお話を通して、一人ひとりが静かにクリスマスの意味に思いを巡らせ、キリストの降誕を祝う時間をともにすることができました。またユニソン会館1階ではチャリティーバザーも同時開催され、多くのお客様で賑わいました。



第56回卒業式・第17回学位授与式

開催日:2020年3月14日(土)

2020年3月14日(土)に第56回卒業式ならびに第17回学位授与式が挙行され、学部生269名、大学院生10名が本学を巣立ちました。

この3月は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、多くの大学が卒業式を中止とした時期でしたが、本学では中村久美学長のリーダーシップの下、検討を重ね、例年より規模を縮小しつつも執り行うこととしました。

来賓や保護者の姿、卒業生が身にまとうはずだったキャップとガウンはなく、スーツ姿の学生たちと教職員のみでの式となりましたが、学生たちは皆落ちついた様子で式に臨んでいました。

学長から学部及び大学院の代表者に証書が授与され、「女性だからと臆せず、今後のキャリアの中でリーダーになる機会がめぐってきたら、迷わず勇気を出してそのチャンスを受け入れてほしい」との式辞がありました。

卒業生、修了生は同窓会に迎え入れられ、同窓生の総数は15,926名となりました。



2019年度 学生表彰

開催日:2020年3月14日(土)

2020年3月14日(土) 学長室において、第56回卒業生成績優秀者ならびに2019年度学長奨励賞・資格関係の表彰が執り行われました。

2019年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、表彰式は行われませんでした。中村久美学長から賞状が授与され、今後の活躍を期待する激励の言葉が送られました。

表彰を受けた学生は右記のとおりです。



【成績優秀者(2019年度4年次生)】

国際言語文化学部 英語英文学科 越智 瀬莉香
国際言語文化学部 国際日本文化学科 松本 若菜
生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 菅井 千郁
心理学部 心理学科 吉田 海

【学長奨励賞】

生活福祉文化学科 調理学ゼミ
京炎そでふれ!輪舞曲
学生会執行部

【資格関係表彰】

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟表彰
(社会福祉士養成課程) 廣瀬 帆風
(精神保健福祉士養成課程) 杉村 百音
一般社団法人全国保育士養成協議会表彰
前田 樹生
公益社団法人日本フードスペシャリスト協会表彰
野竹 ゆりか

第58回ND祭 テーマ「青春～アオハル～」を終えて

開催日:2019年10月26日(土)・27日(日)

2019年度ND祭当日は、前日に降った雨も上がり綺麗な青空が見え、最高のND祭日和となりました。

1日目は、小関裕太さんをお迎えし、トークショーをしました。登場から会場は盛り上がり、お越しいただいた皆さまが楽しんでくださっているのが伝わりました。

2日目は、ラフ次元さん・令和喜多みな実さんのお笑いライブ、令和喜多みな実さん司会のピンゴ大会をしました。さらに、LOCAL CONNECTさんによるAcoustic Liveの開催もあり、会場は笑顔が溢れるひとときになりました。

両日を通して多くの団体による模擬店や展示、発表も行われ、「青春」を少しでも感じていただけたのではないのでしょうか。

ND祭を通して、クラブや教職員の皆さま、協賛してくださった企業や地域の皆さま、そして来場して下さった皆さまのご協力があったからこそ開催できているのだと、改めて感じました。実行委員一同心より感謝しております。2020年度はこれまでの経験を生かし、さらに皆さまに楽しんでいただけるND祭を開催できるよう取り組んでまいりますので、これからもご支援いただきますようお願い申し上げます。

(ND祭実行委員会 委員長 心理学科3年次生 染川 美颯)



カトリック女子大学総合スポーツ競技大会に参加して

開催日:2019年12月14日(土)・15日(日)

第19回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会が2019年12月14日(土)・15日(日)の2日間にわたり、本学にて開催されました。ノートルダム清心女子大学、聖心女子大学、白百合女子大学、清泉女子大学、そして本学の計5校が参加し、バスケットボール、バレーボール、硬式テニス、バドミントンの4つの競技で試合が行われました。

私はバレーボール部として本大会に毎年参加しています。昨年の第18回大会では、バレーボールの種目別で優勝し、今大会は2連覇をめざして臨みましたが、惜しくも2位に終わってしまいました。また、総合成績は3位と悔しさは残りますが、参加した学生一人ひとりが精一杯自分の力を出し切ったと思います。2020年度の大会は聖心女子大学での開催になります。総合優勝をめざして大学全体でオリンピックに負けないくらい熱く盛り上げていきたいと考えています。

最後になりましたが、本大会の準備や運営・応援して下さった教職員、ならび関係者の皆さま、今大会に参加できたこと、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

(バレーボール部前部長 こども教育学科4年次生 羽田 ゆり)



インターンシップ成果発表会

開催日:2019年10月31日(木)

「インターンシップA」受講生による成果発表会が、2019年10月31日(木)に行われました。本年度は、10ヶ所・13人の受講生がそれぞれポスターセッション形式で、実習で学んだことについて振り返り、今後の学生生活や就職活動へどう生かすかを発表しました。

食堂での開催・出入り自由という初めての形式でしたが、教職員をはじめ多くの方や、また実習先のご担当者にもお越しいただきました。近い距離での発表で「生き生きとした発表を間近に聴けた」「学生がリラックスしてプレゼンできる」といった感想をいただきました。来場者からの質問も活発で、双方向でのやり取りから、学びがさらに深まったこと

と思います。

事前学習、実習、事後学習、そして成果発表会を終え、授業としては完了となりますが、半年近くを費やしたこの経験が、それぞれの進路への糧となることと期待しています。



心理学科「社会・ビジネス心理フィールド研修」報告

①フレンドフーズ様との取り組み

実施期間:2019年5月10日(金)～10月24日(木)

大学の近くにあるスーパーマーケット「フレンドフーズ」でPOPのデザインが売上げに与える影響について1ヶ月間の実験をし、報告会を開催しました。報告会ではフレンドフーズの皆様から、「やってみなければ、動かなければ気づけないことはたくさんある。日々トライ＆エラーをしていくことが大切」とのお言葉をいただきました。まさに今回の実験ではこの言葉通りのことがたくさんあり、今回の経験から学んだことを今後を生かしていきたいと思っています。



②京都北山マルブランシュ様との取り組み

実施期間:2019年5月10日(金)～11月1日(金)

マルブランシュ様との連携授業も6年目となった今年度は、「20代～30代の女性がSNSなどで話題にしてくれるような食べ歩きスイーツ、イートインスイーツの提案」という課題をいただき、5つの商品を提案しました。プレゼンテーションでは、相手に伝わるように絵を書いたり、模型を作ったり、自分で作った試食を提供するなどたくさんの工夫をしました。授業では学生同士協力し、意見を出し合って作業を行い、今後につながるような満足できる報告ができました。



保育現場での発表会(「保育表現演習Ⅱ」)

開催日:2020年1月16日(木)

2020年1月16日(木)に、のぞみ保育園にて発表会を行いました。この試みは、3年次生対象の「保育表現演習Ⅱ」という授業の一環で、手遊び、歌遊び、音楽劇、ダンスなどを盛り込んだ40分ほどの発表を、保育現場で行うものです。

授業では、学生が2つのグループに分かれて、一方のグループは「アナと雪の女王」を、もう一方のグループは、絵本「そらいろのたね」を題材にした劇を作り上げました。「こどもたちが、かかわりながら進める演劇」を作るために、「アナと雪の女王」グループは、雪玉作りをこどもたちへお願いし、「そらいろのたね」グループは、こども達と一緒に、家を全身で表現することにしました。保育現場での実践前に、1年次生対

象の「保育内容総論」という授業内で、リハーサルを行います。そこで得た1年次生からの意見を踏まえ、本番に臨みます。学生は、こどもたちの反応を考えて表現活動を創り、保育現場で実践する、貴重な学びの体験ができました。



「福祉コミュニティの実践」活動と発表 実施報告 開催日:2019年11月30日(土)

「福祉コミュニティの実践」は、学生たちが地域にある課題に気づき、その解決のために自分たちに何ができるかを考え、企画、立案、実践する科目です。学内だけでなく、学外の各種企業、事業所、地域の活動者等と協働して、主体的に活動する福祉生活デザイン学科の新しい科目



で、2019年度に初めて開講されました。初年度は、高齢者の孤立・孤食や障がい者の就労や低賃金を課題と捉えました。それらを解決するために、非日常の大学という場で高齢者の地域サロンを開催し、障がい者就労支援事業所のステンシル体験を高齢者のみなさんに年賀状づくりとして取り組んでいただき、障がい者就労支援事業所のお弁当で昼食を参加者でともにするというものでした(2019年11月30日)。その後、その活動内容を学科教員の前で発表しました(2020年1月17日)。イベント開催も成果発表も学生たちにとっては、たいへん緊張する場面でしたが、イベント参加の高齢者、障がい者から楽しいひと時を過ごせたことへの感謝の言葉や先生方からのコメントに達成感や充実感を味わっていたように思います。

ノートルダム遊びプロジェクト2019

「自然と遊ぼう!秋を感じようの巻」報告

開催日:2019年11月10日(日)

(ND教育センター・大学院心理学研究科・心理臨床センター共催)

秋晴れの空のもと、宝が池公園にて「自然と遊ぼう!」を開催しました。50名の親子(子ども28名、保護者22名)の参加があり、学生・院生ボランティア、教員スタッフ合わせて、総勢77名での活動になりました。学生スタッフは、前期の共通教育科目「こどもと自然」を履修していた数名以外は、初めてこのプログラムに参加した学生がほとんどでしたが、野外で自然に触れ、生き活きと遊ぶ子どもたちのペースに合わせて、活動をサポートしてくれていました。今回は、プログラム本来の主旨である自然体験をメインテーマに、ネイチャーカードを使って自然にある色探しをしたり、拾った落ち葉や木の実で造形遊びをしたり、草の上を段ボールのキャタピラーで転がったりと目いっぱい遊びを楽し



みました。風や気温の変化、美しい自然の色などをゆっくりじっくり体感する活動は、子どもの伸びやかな姿や保護者の和やかな様子から、充実したものであったと感じられ、また学生にとっても貴重な体験になったことと思います。ご支援いただきました関係機関、部署の皆様にはご報告とともに感謝申し上げます。

(高井 直美、藤本 陽三、小川 博士、薦田 未央)

リーダースセミナーを終えて

開催日:2020年2月6日(木)・7日(金)

リーダースセミナーでは毎年、学生会執行部会、総クラブに所属する各団体の部長や会計担当などを対象に、今後のクラブ運営や会計処理の方法、クラブの活性化に繋がる研修を通して各クラブ同士の親交を深める事を目的に2日間にわたり行っています。

1日目には、左京消防署の方にご協力いただき救命救急講習会や施設課の方による避難経路の確認などの実務をしました。また学生委員の先生から「リーダーの心得」について講義していただき、各々「リーダーとは何か」について考える良い機会となりました。

2日目には、「部活の活性化について」をテーマに新入生獲得のための新たなイベントを企画し発表するなど盛りだくさんの内容で行われました。所属するクラブ以外の人とのコミュニケーションを図ることで互いに良い刺激となったように感じます。

また、どのグループからも今までにない素敵なイベントの企画があったので、イベント開催の実現に向けて準備を進めていくとともに、この2日間を通して得た多くの学びや気づきを生かし、今後のクラブ活動全体が盛り上がっていくよう務めたいと思います。

(総クラブ長 英語英文学科3年次生 瀬尾 紗由里)



2019年度 キャリア形成ゼミ

旅行プランナーゼミ (英語英文学科3年次生・阿部優香)

1年間を通し、さまざまな力がつきました。このゼミでは、株式会社JTBを含む旅行業界の深い知識をインプットすることができました。メンバーとの協力が必須であり、また自分の意見をたくさん発言すること、そして他人の意見を素直に受け入れることが何よりも大事であることに気づきました。

ブライダル業界ゼミ (英語英文学科3年次生・小野真穂)

1年間のゼミ活動を通して、最後まで諦めずに取り組むことの大切さを学びました。途中、しんどい時が何度もありましたが、仲間を支え合い、最後までやり遂げることができました。

また、学年や学科の壁を超えて、ゼミ生の仲を深めることができ、新しい仲間と出会えました。この経験を就職活動にも生かしていきたいと思います。



小売店業績UPゼミ (福祉生活デザイン学科2年次生・小國日向)

学内にあるミニショップの経営黒字化をめざし、ポイントカードを試行してみたり、コトポップで購買意欲を誘ってみたり、SNSを利用して商品紹介を行ったりしましたが、私たちの活動はそれだけではありません。経営の裏の数字の世界を知り、新商品のどれを仕入れるかを試食して話し合い、コンビニエンスストア業界では陳列方法がどれだけ重要か学びました。自分たちの知らない世界を見ることができたと思っています。

NDタイムズ編集部 (国際日本文化学科3年次生・加藤瑠菜)

キャリア形成ゼミを受講して、メールや電話の対応力が受講前より身につきました。また一般の方へ自らの足で会いに行きインタビューもしたので、コミュニケーション能力や、積極性も向上したと実感しています。

社会人として必要な能力を、新聞作りを通して楽しく学ぶことができ、非常に有意義な1年でした。



ワークショップ・デザインゼミ (国際日本文化学科2年次生・宮平莉緒)

ゼミの期間は長いようで短く、始めてみればあっという間でし。アンケートを作成したり、目上の人への対応をしたりなど普段することのないことばかりを体験しました。ゼミの中で学んだことや身につけたことなどをさまざまな場面で生かしていこうと思いました。



お知らせ

新学年の始まりを迎えました。新しく何かを始めようと考えている方もあてよう。

将来に役立つ何かを…と考えている方は、ボランティアやアルバイトなど、学外での活動に参加してみたいかどうでしょうか。大学を卒業した後は、社会の一員としてさまざまな方と接することになります。子ども、お年寄り、外国人、会社員、障がい者……多様な方々を通して「社会」を知ることができ、卒業後の目標が見えてくることでしょう。迷いや不安を感じた時は、キャリアセンターで気軽にご相談ください。お待ちしております。

キャリアセンターでは、今年度もキャリア形成ゼミ・インターンシップといった授業や各種対策講座などで、皆さんをサポートしていきます。申込のチャンスを逃さないよう、センターからのお知らせにご注目!ください。

キャリアセンターからのお知らせは、学内の掲示板やWEBサイト、Campusmateのメールやtwitterでお知らせしています。

キャリアセンター開室時間

8時45分～18時15分(授業開講日の平日(定期閉室時を除く))

キャリアセンターHPアドレス

<http://www.notredame.ac.jp/careercenter/>

キャリアセンターtwitter

https://twitter.com/nd_career



グローバル英語コース留学・セメスター認定留学を終えて

2019年度後期にグローバル英語コース留学制度ならびにセメスター認定留学制度による留学から帰国した学生たちが自分たちの留学生活について報告してくれました。

原田 あやめ

英語英文学科3年次生

留学先 ワシントン大学(アメリカ)
留学制度 グローバル英語コース留学
留学期間 2019年9月～2020年3月



左から3番目が
原田さん

まず、アメリカに来て思ったことは、アメリカは個性を大事にしている国であるということ、そして、わからないことは恥ずかしがらずに聞くことが大切だということです。

先生はリスニング&スピーキング、リーディング、グラマー&ライティングというように授業ごとに異なります。どの先生も優しく、授業中も発言しやすい雰囲気です。わからないことはその場で聞くこともできますが、授業が終わってから質問をしても理解ができるまで教えていただきました。

私の留学生活は、大学での授業がお昼から夕方までなので、朝の時間を有効活用し、宿題や予習をしていました。また、ホームステイ先に帰ってからは、ホストマザーが毎日、「今日の学校はどうだった?」と聞いてくれるので、その日あったことを話したり、一緒にテレビを見て過ごしました。ホストマザーは発音や言い方がおかしかったりすると何度でも正しい発音を教えていただけるので、間違っているかもしれないと思って、とりあえず自分から会話をするようにしていました。

この留学生活で身につけたことを生かし、帰国後のキャンパスライフを充実したものにしたいと思います。

井上 日香梨

英語英文学科3年次生

留学先 マッコーリー大学(オーストラリア)
留学制度 グローバル英語コース留学
留学期間 2019年8月～2020年3月

左が井上さん



私は、京都ノートルダム女子大学に入学する前から留学をしたいと思っていました。そして、オーストラリアでの生活にも慣れ、気づいたことがたくさんあります。

それはまず、自信を持つことです。留学をするまでは、常に自信がなく、何でもネガティブに考えてしまう性格でした。しかし、留学中にできた友だち、ホストファミリーと話をしていると、自信のないことを少し恥ずかしく感じました。現地の人々は人の目を気にせず、堂々としていることが行動や発言からわかりました。日本にいた時は、大きく感じた不安や悩みも、オーストラリアに来て「小さいことだったんだ」と思いました。そして、私はもともと英会話が好きだったので、人との会話が楽しく、現地の友だちにスピーキングを誉められた時は、とても嬉しく自信につながりました。

次に気づいたのは、将来のことです。私は、留学する前まで将来の夢が漠然としていましたが、さまざまな人々と話をしていくうちに、「何がしたいのか」だんだん明確になっていきました。

この留学でたくさんのことを得ることができ、改めて留学してよかったなと思いました。

山口 紗季

英語英文学科3年次生

留学先 オークランド大学(ニュージーランド)
留学制度 グローバル英語コース留学
留学期間 2019年8月～2020年2月



前列右から5番目が
山口さん

国際色豊かであるニュージーランド、ここは一人ひとりの個性を育て、互いに尊重し合い、他者との「違い」に誇りを持つ人々の住み国です。私は留学を通して語学はもちろんですが、それ以上に様々な個性に出会いながら自分はどういった人間であるのかを考え、見つめ直させてくれたことこそ、私がここへきた本当の意味であったように感じています。

以前の私は保守的で受け身の性格でした。しかし、そんな自分を変えたいという気持ちや、将来の新しい可能性を見つけられるのではという思いから海外留学を決めました。留学が終わった今、「自分自身どこが変わりましたか?」と聞かれたら、明確に答えを出すことはできないかもしれませんが、しかしこの半年間、多種多様なバックグラウンドをもった人々と共に生活をし、勉強に励んだ日々は私のこれまでの考え方を考える「きっかけ」を与えてくれました。

自分の知らない世界や新しいことを知ることとはとても魅力的なことでした。ただ、それらに飛び込む勇氣、行動は時に簡単ではありません。しかしその一歩は自分の人生の糧になり、世界をも広げてくれると思うのです。今、私は学びに溢れたこの経験に心から感謝し、幸せを感じています。

右から2番目が
緒方さん



緒方 成美

英語英文学科4年次生

留学先 レジャイナ大学(カナダ)
留学制度 セメスター認定留学
留学期間 2019年9月～2020年3月

私が留学した理由は、英語力を高めることはもちろんですが、それ以上に今までの自分の内気な性格を変えたかったからです。

初めは、留学することを時期的な問題もありとても悩みました。留学したいという気持ちはすごくあるのに、このまま行くことを諦めてしまったら絶対に後悔するだろう、そして日本にいても何も変わらないだろうと思ったので、留学することを決めました。

いざ、留学してみると、楽しいこともたくさんありましたが、悩んだり、失敗したり、苦しかったことの方が多くありました。しかし、私は、留学したことを後悔していないし、むしろ留学したからこそ、新しい出会いがたくさんあって、多くの経験や学ぶことができました。また、すごく刺激のある生活ができて、毎日もっと頑張らないといけないと思うことばかりでした。まだ、将来の進路は決めていませんが、今回留学で得たことは必ず自分の将来に生かしたいと思います。

2019年度春期海外研修が実施されました

2019年度春期海外研修として、2研修が実施されました。それぞれの研修に参加した学生は充実した時間を過ごすことができました。

1) オーストラリア英語研修

(オーストラリア シドニー)

2020年2月15日(土)から3月8日(日)までの23日間にわたり、オーストラリアのシドニー大学において実施されたオーストラリア英語研修に4名(英語英文学科2名、福祉生活デザイン学科1名、心理学科1名)が参加し、無事に帰国しました。参加者は、授業やフィールドワーク、ホームステイを通して、英語を上達させるとともにオーストラリアの自然、歴史、文化、生活習慣等についても学びました。



2) 海外インターンシップ

(オーストラリア ブリスベン)

2020年2月8日(土)から3月1日(日)までの23日間にわたり、オーストラリアのブリスベンのLONE PINE KOALA SANCTUARY(コアラを中心とした動物保護団体であり、観光施設)でインターンシップ(就業体験)が実施されました。本学から1名(国際日本文化学科)が参加し、英語での観光業務体験やホームステイを通じて、オーストラリアでの観光施設におけるホスピタリティや動物保護について学び、コミュニケーション能力、積極性や責任感を養うことができました。



行事のご報告

国際教育課

1) 2019年度外国人留学生のための日帰りツアーを実施しました。

2019年11月30日(土)に本学同窓会主催の外国人留学生のための日帰りツアー「寿長生の郷を訪ねるツアー」が実施され、留学生9名が参加しました。

滋賀近江を訪れ、旬の素材で作られたお弁当を味わい、老舗菓子店「叶匠寿庵」の職人さんのもとで和菓子作りを体験しました。また、紅葉の美しいお庭でお茶席を楽しみました。

留学生は同窓会の方々と将来について語り合い、交流を深める良い機会となりました。



2) 2019年度外国人留学生研究発表会が開催されました。

2019年12月18日(水)にユージニア館3階NDホールにて、「外国人留学生研究発表会」が開催されました。発表者は高岸雅子先生の「日本語表現II」を履修している外国人留学生11名で、「外国人留学生から見た日本。アジアの国との異文化間理解。」をテーマにそれぞれが研究結果を発表しました。

個性豊かなテーマをていねいな日本語で説明していました。

【発表題目】

1. 中国の一人暮らしの高齢者の心理的な問題について
2. 現在の日本の青少年のスマートフォン依存について
3. 絵文字について
4. 中国と日本の食文化について
5. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」についての日本の若者の意識調査
6. 「思いやり」について
7. 「日本人の曖昧表現」



今号より新たに、本学を卒業し社会で活躍している卒業生を紹介するページを設けました。在学中の学びが現在にどのように役立っているのか、そして現在のお仕事についてご本人よりメッセージをいただきます。今後もこちらのページにて、様々な学科の卒業生をご紹介します。予定で。

独立行政法人国際協力機構 (JICA)
日系社会青年ボランティア

近藤 ゆみ さん(英語英文学科 卒業生)

私は卒業後、民間企業で4年間勤務していましたが、日本語教員養成課程の教育実習(香港)での経験が忘れられず、会社を退職し、現在ブラジルで日本語教師をしています。

他国と違い、ブラジルの日本語学校は、約110年前に日本からブラジルに移住した日本人が作った学校です。日本のルーツを持った日系人に日本語や日本文化を大切にしてほしいという想いから作られたので、言語だけでなく、時間を守ることや相手を思いやることなど、日本人が大切にしていることを伝えることが求められます。また、書道や茶道、季節の行事などの日本文化を伝える授業も定期的に行っています。

在学中の茶道部での経験、セメスター留学の経験、小山ゼミでの英語スピーチ、エアラインプログラムでのマナーの基礎習得、そして日本語教員養成課程プログラムで学んだことなど、あらゆることが今に

繋がっています。

京都ノートルダム女子大学は先生と学生の距離が近く、学科を越えて先生や学生と交流できたことはとても良い経験になりました。今でも何かあれば相談に行ける、そんな母校に出会えて私はラッキーでした。これからも良い報告ができるように精進したいと思います。

私が企画実行した、ブラジル全土の日系団体と踊った東京五輪応援ソング「パプリカ」のダンス動画をYouTubeで公開中です！ぜひ「パプリカダンス ブラジル」で検索してブラジルの様子をご覧ください！



授業の様子1



授業の様子2



YouTubeで公開中のパプリカダンスの一部

ND教育センター

ノートルダム女学院高等学校との連携授業

本学は、ノートルダム女学院高等学校ブレップ総合コースの生徒に向けて、大学の学びを体験する教育プログラムを提供しています。2019年度は、右のとおり、本学教員・学生による授業を生徒が受講しました。2020年度からは、3年生を対象とした授業も開講予定です。



自己探究としての「リフレーミング」



みらいデザイン☆プログラム

●1年生対象

4/20(土)14:30~17:30	みらいデザイン☆ハイスクール(ノートルダム女学院高等学校主催)
6/7(金)13:50~15:25	自己探究としての「リフレーミング」(伊藤一美)
7/14(金)・8/3(土)・4(日)・18(日)	オープンキャンパスに参加しよう(各学科ミニ講義)
10/11(金)13:50~15:25	みらいデザイン☆プログラム ・応用言語学入門(米崎啓和) ・西洋絵画と物語表現(吉田朋子) ・生活科学とは?(安川涼子) ・心理学は役に立つ?!(廣瀬直哉) ・優れた教師の条件—こどもを理解することから—(河佐英俊) ・生活科学の意義と学びの効用—暮らしの達人、社会の番人、できる成人を育てる生活科学—(中村久美) ・子どもが家族をケアする時代—ヤングケアラーって何?—(佐藤純)
2/7(金)13:50~15:25	女性の生き方とキャリアを考える ・女性のライフキャリア(青木加奈子・学生)

●2年生対象

5/9(木)13:50~15:25	女性の生き方とキャリアを考える ・キャリア形成のためのコミュニケーションII(平野美保) ・女性のライフキャリアII(青木加奈子)
10/19(土)14:30~17:00	みらいデザイン☆ハイスクール ・キャリアセンター、「キャリア形成ゼミ」による職業人と大学生・高校生のキャリアイベント(濱中倫秀・キャリア形成ゼミ受講生)
1/15(水)13:50~15:25	みらいデザイン☆プログラム ・AI時代の数学的思考力(神月紀輔) ・コミュニケーション、特にライティング力の大切さ(吉田智子)

学生相談室

学生相談室主催 2019年度教職員研修会実施報告

開催日:2019年9月24日(火)

2019年度は、「女子学生の安全を守るために知っておきたいこと」というテーマで、徳島大学の井ノ崎敦子先生にご登壇いただきました。

井ノ崎先生は、15年以上学生相談に携っておられ、現代の大学生が抱える様々な問題に精通されています。そして、先生がライフワークとされているのが、カップル関係の心理臨床、特にDV(ドメスティックバイオレンス)の被害を受けた女性の心理学的支援です。昨今のSNSの普及により、女子学生が危険に晒される機会が増えています。

そこで研修会では、「女子学生が受けやすい被害と対応」、「被害を予防するためにできること」について、先生のご経験を混えてとてもわかりやすくお話いただきました。参加者からも、「被害を受けた学生への対応のポイントを具体的に教えてもらい、たいへん勉強になった」など、たいへん有益な研修であったとの声をいただきました。関連する法律について、もっと知りたいというご意見もいただき、今後も現場の教職員のニーズに応じた研修会を企画できればと考えております。



教務課

カリキュラムツリー作成ワークショップ実施報告

開催日:2020年1月15日(木)

2020年1月15日(水)、カリキュラムツリー作成ワークショップが開催され、教員40名、職員14名が参加しました。このワークショップは、現在進められている2021年度に向けたカリキュラム改革の一環として実施されたものです。学科ごとに、卒業時に身につけるべき力「ディプロマポリシー」を確認し、それを達成するためにどのようにカリキュラムを

組み体系化していくのかを議論して模造紙にまとめ、ワールドカフェ形式でポスター発表をしました。全学科の教員が一堂に会して作業をしたことで、全学的な改革の機運を高める非常に有意義な機会となりました。

ND教育センター

学生の皆さんへ
—manabaリマインダ設定のお願い—

本学では、学生の主体的な学習推進のため、インターネットを利用した授業支援システム(manabaとrespon)を導入しています。manabaには、小テストやアンケート機能、レポート提出機能などがあり、授業でも活用されています。各授業(manabaではコースと表示)の重要なお知らせや新しい書き込みなどがあった場合、それらの更新情報をユーザが登録しているメールアドレス宛に送信するリマインダ機能があります。見逃しなどの防止のため、スマートフォンをお持ちの学生は、必ずリマインダ設定をしてください。

manaba TOP
https://manaba.notredame.ac.jp/



ND教育センター

ND教育センター学習支援のご案内

ND教育センターでは、事務室での学習相談のほか、manabaを使ってレポート作成に関する基礎を段階的に身につけるための学習の支援をしています。ぜひ、ご活用ください。

ND教育センター事務室:ソフィア館1階

ND教育センター オリジナルサイト・Twitter

オリジナルサイト
https://www.notredame.ac.jp/ndec/



Twitter
https://twitter.com/ndeducation_c



ND教育センター

「徳と知教育センター報告会～2021年度に向けて～」実施報告

開催日:2019年9月24日(火)

徳と知教育センターは、2019年の本格始動から3年を迎えました。この間、「本学らしい学びの質的転換の推進役」をめざし、最優先課題と位置づけられている共通教育を中心に整備を進めてきました。

2019年9月24日(火)、これまでの歩みの結果である現在のセンターの取り組み状況や今後の活動の方向性を広く教職員にお知らせすべく、報告会を開催しました。2021年度は入学者選抜制度が大きく変わり、受験生たちの志望校選択に向けた熱い視線が注がれる時でもあるため、入試課、株式会社進研アド様の協力も得て、今後の志願者の動向や入学前教育など本学の高次接続教育への取り組みについても紹介しました。

2019年10月1日には「京都ノートルダム女子大学教育センター(ND教育センター)」に改称、2021年度に向けて本学教育の基盤となる共通教育科目のカリキュラム改革を中心に取り組んでいます。



ND教育センター

「カリキュラムコーディネーター勉強会」実施報告

開催日:2019年11月27日(水)

「カリキュラムコーディネーター」は「平成30年度私立大学等改革総合支援事業調査票」で、その配置の有無が問われたことで注目されました。そもそもカリキュラムコーディネーターとは何をする人なのか。今回、日本高等教育開発協会主催「カリキュラムコーディネーター養成研修会<初級編>」を受講した職員が話題提供者となり、ご参加いただい

た方と一緒に考える勉強会を開催しました。

学生に「何を教えるのか」から「何ができるように育てていくか」へ——。カリキュラムコーディネーターが担う役割を知ることを話の緒として、大学教育の質保証、組織体制のあり方など、カリキュラムのしくみとそれに関する話題を、参加者と共有できる機会となりました。

行事予定

※以下は4月10日(金)時点の情報です。

2020年 4月	3月31日(火)	編入生オリエンテーション(午前)、外国人留学生オリエンテーション(午後)
	1日(水)	【全】①オリエンテーション(4月7日(火)まで)
	2日(木)	【全】①入学式
	2日(木)	【院】大学院オリエンテーション
	2日(木)	【全】①司書課程オリエンテーション
	6日(月)	【全】②③④オリエンテーション
	6日(月)	【全】②③④日本語教員養成課程オリエンテーション
	6日(月)	日本学生支援機構奨学金(予約採用・在学採用)説明会
	7日(火)	履修登録(仮登録科目2次募集)期間(4月10日(金)まで)
	8日(水)	日本学生支援機構奨学金在学採用説明会
	9日(木)	【全】②③④インターンシップ(学内)説明会
	10日(金)	【全】②③④インターンシップ(コンソーシアム)説明会
	15日(水)	前期授業開始日
5月	15日(水)	海外研修説明会(4月17日(金)も実施、オンラインの可能性有)
	15日(水)	【全】②③キャリア形成ゼミ説明会→22日(水)に受講相談会を実施
	15日(水)	履修検討期間(4月21日(火)まで)
	16日(木)	【全】①フレッシュマンセミナー
	18日(土)	【全】①健康診断→延期(日程調整中)
	22日(水)	図書館:春期長期貸出返却期限日
	26日(日)	オープンキャンパス
	1日(金)	海外研修参加申し込み締切
	7日(木)	グローバル英語コース留学説明会I
	11日(月)	履修中止届出期間(5月15日(金))
6月	14日(木)	派遣留学プログラム説明会(セメスター、韓国、姉妹)
	18日(月)	【国日】④卒論題目届提出締切(17:00)
	23日(土)	TOEIC IPテスト(希望者対象9:15～)
	23日(土)	補講日
	23日(土)	公開講座
	1日(月)	【現心】④卒業研究・卒業論文テーマ提出(17:00)
	6日(土)	補講日
7月	12日(金)	大学院学内特別推薦出願開始
	14日(日)	オープンキャンパス、大学院説明会
	20日(土)	TOEFL ITPテスト(希望者対象9:15～)
	27日(土)	補講日
	29日(月)	大学院学内特別推薦出願締切
	4日(土)	補講日
	4日(土)	TOEIC IPテスト(希望者対象9:15～)
8月	17日(金)	【英文】②ゼミ分属説明会(16:40～)
	18日(土)	補講日
	19日(日)	オープンキャンパス
	25日(土)	補講日
	25日(土)	図書館:夏期長期貸出開始
	30日(木)	前期授業最終日
	31日(金)	定期試験期間(8月7日(金)まで)※定期試験のほか補講を行うことがある。
	1日(土)	オープンキャンパス
	2日(日)	オープンキャンパス
	3日(月)	【こども】①コース分属希望調査書提出(17:00)
9月	8日(土)	夏期休暇(9月23日(水)まで)
	11日(火)	窓口事務取扱休止
	12日(水)	夏期一斉休業(窓口事務取扱休止、17日(月)まで)
	16日(日)	オープンキャンパス
	18日(火)	窓口事務取扱休止
	31日(月)	窓口事務取扱休止
	1日(火)	【福生ア】④卒論ラフコピー提出締切(12:00)
	3日(木)	前期追試験
	6日(日)	オープンキャンパス
	11日(金)	大学院入試I期
9月	24日(木)	前期卒業式・学位授与式
	25日(金)	後期授業開始日
	25日(金)	履修検討(登録修正・仮登録科目2次募集)期間(10月1日(木)まで)
	26日(土)	TOEIC IPテスト(希望対象9:15～)

※①・②・③・④については、学年の数字を表します。(例:①→1年次生、②→2年次生)
※新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、グレーの箇所については中止となりました。

【学部】

国際言語文化学部

役職	氏名
学部長	岩崎 れい
英語英文学科主任	小山 哲春
国際日本文化学科主任	鷺見 朗子

現代人間学部

役職	氏名
学部長	加藤 佐千子
福祉生活デザイン学科主任	牛田 好美
心理学科主任	廣瀬 直哉
こども教育学科主任	田中 裕喜

【大学院】

人間文化研究科

役職	氏名
研究科長	岩崎 れい

心理学研究科

役職	氏名
研究科長	河瀬 雅紀

【各センター】

教育センター

役職	氏名
センター長	神月 紀輔

図書館情報センター

役職	氏名
センター長	萩原 暢子

キャリアセンター

役職	氏名
センター長	須川 いずみ

カトリック教育センター

役職	氏名
センター長	久野 将健

心理臨床センター

役職	氏名
センター長	向山 泰代

【事務局】

役職	氏名
事務局長	榊田 美起子
管理運営部長	榊田 美起子
教育支援部長	小林 忍

編集後記

先日、福祉生活デザイン学科に入学した新入生にアンケート調査を実施しました。いくつかの質問をお願いしたのですが、その中で興味深かったのが、「入学して気づいた本学科の魅力」。大学にも通じる部分が多いのでご紹介してみます。一番には、福祉生活デザイン学科の魅力である衣食住福祉を1年次生で一通り学ぶ「幅広く学べる」でしたが(2021年度より生活環境学科としてさらに幅広い学びになります)、興味深いのが第2位、第3位。第2位は「校舎がきれい」で、なかでもイチ押しは「トイレがきれい」。意外でしたが納得です。そして第3位には「少人数で学びやすい」とともに「先生が優しい」。学生の長所や持っている魅力を伸ばし、自分らしく生き活きと社会に羽ばたくことを応援する本学教職員の姿勢が新入生に伝わっていてうれしく思います。こういうなかなか伝わりにくい魅力が「NDキャンパス通信」から伝わりますように祈念しております。

(福祉生活デザイン学科 佐藤 純)

●広報委員長 竹原 広実 ●広報委員 大川 淳、堀 勝博、佐藤 純、薦田 未央、太田 容次

京都ノートルダム女子大学 大学報

NDキャンパス通信 Vol.12

2020年4月20日

編集／広報委員会

発行／京都ノートルダム女子大学 広報課

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地

URL: <https://www.notredame.ac.jp>

E-mail: information@ml.notredame.ac.jp

印刷／株式会社ティ・プラス